〝幻の図面〟が懸け橋に

ベルリン五輪出場同志社大生入手、大津のクラブ保管

「欧州にない」ウィーンのクラブから声

関係者「予想外の交流」

吉本善多氏

ドイツで設計された戦前の木造ヨットをめぐり、世界で数少ない同型船を持つ大津市の琵琶湖ヨット倶楽部（長谷川和之会長）と、オーストリア・ウィーンのヨットクラブが交流を始めている。欧州で入手が困難になった設計図を、同倶楽部が完全な形で保管していたためだ。ウィーンのクラブの求めに応じ、コピーを郵送した同倶楽部関係者は「五輪に出た先人が取り持つ予想外の交流だ」と喜ぶ。

同倶楽部のシンボルでもある木造ヨット「アインハイツ・ツェーナー」（EZ、全長六・六メートル、幅一・四メートル）は、一九三六年のベルリン五輪に出場した吉本善多氏（当時同志社大生、戦死）が次の五輪でのメダル獲得を目指してドイツから設計図を取り寄せ、三九年に大津市の造船所で建造された。

昨年十一月、同型船を持つウィーンの「ユニオン・ヨットクラブ」の男性から「ホームページでEZを見た。連絡を取りたい」とのメールが同倶楽部に届いた。第二次世界大戦の爆撃で同型船はドイツやオーストリアに六十艇しか残っていないこと、二〇〇五年から現存する同型船の所有者を探し、レースを復活させていることなども記されていた。

しかし、「設計図だけは発見することができない」とあったため、同倶楽部の青木英明副会長＝京都市伏見区＝は早速、設計図をコピーし、ウィーンに郵送。クラブの男性からは、EZの設計者はベルリンの天才的造船技術者だったことなどEZの詳しい歴史をメールで教わった。

EZは現在、同倶楽部が主催する琵琶湖のヨットレースで年一回、その重厚で優美な姿を見せる。長谷川会長＝京都市山科区＝は「先人のおかげで、こうした交流が生まれた。あらためてEZを大事にしようと思う」と話し、青木副会長は「いずれウィーンを訪れ、復活したレースにも参加したい」と思い描いている。

独で設計・木造ヨット「EZ」

琵琶湖ヨット倶楽部のシンボルとなっている木造ヨット「アインハイツ・ツェーナー（EZ）」＝上＝と同倶楽部が所有するEZの設計図（大津市柳が崎・県立ヨットハーバー）